
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第165号

-環境・農業・食べ物など情報の交流誌-

2005.08.25 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm

*****発行部数 1393 部*****

□ 目次 □-----

<今週の提言> すがすがしい詩集『曲家の里の宿題』 松坂正次郎

<80才からのメッセージ> 人生の転機-8月15日 原田 勉

<日本たまご事情> Chicagoland恐竜博物館 齋藤富士雄

<玉川上水の謎> その6 漏水層を避ける 安富六郎

<田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト リトルファーミング

クラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク 開設!> 増山 博康

<戦後60年 新刊紹介>

国民学校世代からの伝言

・忘れられない「食べもの」「疎開生活」「玉音放送」など 原田 勉

<シンポジウムのお知らせ>

「わが国における環境直接支払い等の農業環境政策の必要性和有効性」

<編集後記> 子どものけんかじゃああるまいし

<今週の提言> すがすがしい詩集『曲家の里の宿題』

すがすがしい詩集『曲家の里の宿題』を贈ってくださった著者の、すずき
いつお（本名・鈴木福松＝山崎農研会員）さんは1924年、会津若松の生まれ。
農林省東北農試から農業技術研究所に勤務、定年退職後はNGO海外農業協力の
仕事に5年間も携われた。

これからどう生きていこうかと考えていた時、聖路加国際病院・日野原重明
さんが「75歳以上の新老人は、老けこまないために新しいことに挑戦しよう」
と新聞で呼びかけた折しも、友人から詩集が届き、自分も「自由に誰にも気兼
ねせず、これまでの人生で思ったこと、いま心に浮かぶことを、自分のことば

で吐き出してみたい」と思い立ったのが、詩の道に入った切っ掛けだそうだ。

「曲り家」とは、かぎ型に曲がった平面を持った民家で、南部地方を中心に
見られ、突出部に馬屋などを設ける、と辞書にある。戦前、西日本の農家は役
牛、東日本の農家は役馬を飼育していた。雪国では冬場は馬糞を引かせ、春先
には田起こし、均しに使い、収穫時は背にたくさんの稲束を背負わせた。どこ
の農家でも「家族扱い」で、四六時中、馬の動静がわかるように家の一角に馬
小舎を併設したものと聞く。

わたしは著者の「序にかえて」に、この詩人の澄みきった心根を見た。

美しい空をいつもみていたい／
花は見られるためではなく 無心に咲くから美しい
(中略)
心のうちが開けられ すべてが拭き取られて 無になったときに
／はじめて空は自然に帰る。

『曲家の里の宿題』定価 2,300 円

発行所：花神社、千代田区猿楽町 2-2-5 新興ビル 615、TEL.03-3291-6569

松坂正次郎

山崎農研会員・「農政と共済」コラムニスト

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<80 才からのメッセージ> 人生の転機-8 月 15 日

夏になるといつも、あの暑い 8 月 15 日を思い出す。今年は、特に戦後 60 年の
節目とあって、もう一度あの戦争を考え直すチャンスとしたい。

私は前回述べたように、仙台飛行学校で空襲を受け、ほとんど為すこともな
く山に避難して逃げまどっていた。そして突然、8 月 15 日に玉音放送があった
と後で聞いた。学校長と軍の上層部は、将校生徒の反乱を恐れて事前に知らせ
なかったのである。

翌 16 日に広場に集められた全校生徒は、「天皇陛下の放送一無条件降伏」を知らされ、合わせて阿南陸軍大臣の自決などが報告された。全校生徒は皆、号泣した。直立不動の姿勢のまま、大粒の落涙は地上に染み込んでいく。敗戦の口惜し涙か。戦友の死を悔やむ涙か。忍ぶべからざるを忍ぶ我慢の涙か。いろいろ混乱して泣いた。泣いた。

8 月 17 日からは、現在の体制を維持し、方針決定まで静観せよ。と、毎日ラジオ体操や休暇、潮干狩りなどに時間をつぶす。

この間に、新聞発表のポツダム宣言を入手し、閲覧す。とくに第 9 項「日本国軍隊は完全に武装解除され、平和で生産的な生活をするために帰宅を許される」を熱心に読む。

噂話に、ソ連が参戦したので、北海道、東北地方の兵隊は、ソ連に連れていかれるかもしれない。内地でも汽車の中で将校が民衆の暴行を受けたと伝えられる。

やがて 9 月 15 日ごろ、敗戦の情勢がほぼ定まったので、交通の便の良い近県の者から復員を許すという方針が出た。

私は福島県勿来（なこそ）の炭鉱に親戚がいるので、そこに世話になるという理由で、第 1 日目に復員した。「陸軍後備役軍曹ヲ命ズ」という辞令と復員証明書、給料 700 円余、毛布 3 枚と冬の軍装一揃い、私物などを背囊に詰めて飛行学校を後にした。

さて、親戚の疎開先に帰還。久しぶりに畳の上に寝て、家族と共に暮らすようになって初めて敗戦で命を拾ったこと、平和のありがたさを実感した。

ところが、今後いかに生きていくかに迷った。命はこれまでと考えて将来の展望を持ち得なかった軍人が何を為すべきかに悩んだ。

戦争は嫌だ。飛行機工場も嫌だと思い、漠然と平和産業は農業しかないかと考えた。

そうこうするうちに、天の声が降ってきた。ラジオの情報で、陸海軍諸学校出身者は文部省所管学校へ転入学できそうだと知った。

文部省に確かめて、東京農林専門学校（現東京農業大学）の農科に転入学できたのは11月15日だった。

次第に社会の動きも分かってきて、社会科学研究会に参加し、農業経済学を専攻する道を選んだ。ここで恩師、山崎不二夫先生、大谷省三先生の教えを受け、ジャーナリストとなって現在に至っている。

8月15日の敗戦が人生の転機をもたらしたのである。

ヒロシマ・ナガサキでは原爆で地獄を見た人々。沖縄・サイパン・硫黄島で玉砕した人々。全国各地の爆撃で犠牲になった人々。数え切れないほどの不幸をもたらした戦争。再び戦争はしてはいけない。8月15日は鎮魂の日である。同時に平和回復の日でもある。もう一度あの戦争を考え直す機会である。

<参考文献>

河邑 厚徳【編著】『昭和二十年八月十五日 夏の日記』角川文庫 1995年

【目次】

プロローグ 夏の日記

第1章 最後の空襲

第2章 大東亜共栄圏の崩壊

第3章 ドキュメント玉音放送

第4章 学童疎開と子供の目

第5章 生活者の記録

第6章 兵士の日記

第7章 銃後の女たち

第8章 帝都、灰燼に帰す

第9章 広島（原爆）の記録

第10章 地方の様々な敗戦

第11章 教育の場で

終章 八月十五日

（#絶版につき、古書店・図書館でお探してください。）

河原一敏さんの「ポツダム宣言全文と現代語訳」のページ

<http://list.room.ne.jp/~lawtext/1945Potsdam.html>

山崎不二夫

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/073yamazakibunko.html>

大谷省三

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/082ootanibunko.html>

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<日本たまご事情> Ch i c a g o 恐竜博物館

Ch i c a g o はとても面白いところだ。日本の役人さんが見たら肝をつぶす光景に出会った。日本で言えば上野の国立博物館を夜借り切って3000人?以上の大パーティーを開催したのだった、しかも弁当、ビール、ワインつきときている、国宝級の展示物がゴロゴロしている中で酒盛りをやったことになる。しかも参加した人数が半端ではなかった。

パーティーは夕方7時から **Field Museum of Natural History** で始まるというので少し早めに出かけた。博物館前の広場はもう1000人?くらいの人たちでいっぱいであった。時間になると玄関が開き博物館の大広間に案内され、そこでグルメ弁当なるものと飲み物のチケットを渡された。ビールとワインはあちこちにある飲み物コーナーで受け取る仕組みになっている。あとは博物館の好きな場所で弁当を開き酒盛りをすれば良いことになっているらしい。

この博物館は恐竜(ティラノサウルス)の完全骨格化石で有名だ。早速その姿がよく見える中二階に陣とって酒盛りを始めた。なにしろこの恐竜はでかい。全長約13メートル、高さ4メートルはある。これを目の前にした酒盛りは途中から変な気分になってきた。あとで展示物の一部を見てまわったのだが夜の博物館は凄味がある、これでまわりに大勢の人が居るからいいものの一人になったらとても恐ろしくて居られないであろう。

パーティーといっても誰か堅苦しい挨拶をするわけでもなし、参加者がそれぞれに楽しんでた。恐竜(ティラノサウルス)の骨格化石のある大広間では夜

遅くまで民族音楽の生演奏が流れていた。今のところ当日酔っ払いが展示物に悪戯したという話は聞いてない。

齋藤 富士雄

(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<玉川上水の謎> その6 漏水層を避ける

玉川上水の取り入れ口である羽村堰から数キロ南の下流、熊川（地名）には台地の下を南下する水路があった。南下すれば地層状況は悪化してついに水喰土層（地下水の低い砂礫層）にぶつかった。掘削時に粘土層を壊したか、その露頭に当たったかであろう。現在の水路は旧水路の代替えで数百メートル西側の台地に移動している。路線の修正は水路に水を流した後か、それとも工事過程での設計変更かは不明であるが、工事中の変更なら、関東ロームにかなりの知識を持っていたと考えてよいだろう。にわか補修がきかないことを知っていたからである。

土層の柱状図からローム層の薄い場所が分かる。羽村から立川周辺までは水路の幅を大きくとり、水深を浅く保って下層の砂利層を避けている。土層から見ると、玉川上水には幾つかの難所がある。一つは西武鉄道の武蔵砂川駅付近に南北に走っている立川断層帯である。もう一つは玉川上水駅付近にある国分寺崖線（段差3〜4m）であり、さらにもう一つは井の頭公園付近であろう。3者とも地層が不連続なので工事には細心の注意がいる。

立川砂川（西武武蔵砂川駅）の南北を通る立川断層付近には台地がある。東進する水路は台地直前で、右カーブして断層地帯を200m進み、さらに左カーブして約3mの段差（断層）を乗り切る（標高102m面から105m面へ）。断層帯あたりは関東ローム層は薄い地帯とされている。なぜここで迂回をしたのであろうか。砂礫層に遭遇しなかったのは幸であった。

さらに東1.5km下流（東方）には国分寺崖線（立川面と武蔵野面間の南北に走る数メートルの崖）があるが、水路はそのまま直進で乗り切っている。井の頭付近では五日市街道に沿った台地上にあった水路は、ここから甲州街道に沿った台地に鞍替えする。この両台地の間には小さな低地が幾つかある。井の

頭池周辺の地形は複雑である。この台地乗り換えのためにカーブと急流がつづく。「人食い川」の由来はこの辺にあらう。

複雑な土層帯を掘り進めるため、どのような調査が行われたのだろうか。これらはすべて謎であるが、しかし変化の大きい台地を水路は砂利層と遭遇のリスクを巧みに回避している。

安富 六郎

山崎農研会員・電子耕編集同人

y.nouken@taiyo-c.co.jp

<田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク 開設！>

環境クラブでは、社団法人農山漁村文化協会の後援を得て開設された「首都圏帰農サポートネットワーク（帰農ネット）」の事務局をしています。

この7月、帰農ネットで、田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト「リトルファーミングクラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク」

(<http://www.kinou.net/>) を開設しました。

帰農ネットでは、都会の人が野菜やお米を育てる「兼農生活」を提案しています。兼農生活する人が「リトルファーマー」です。

このリトルファーマーの人達に役立つ情報を提供するのが、サイトの目的で、各地でみんなで野菜やお米を育てている「リトルファーミングクラブ」や野菜の育て方のワンポイントレッスンなどを掲載しています。

関連して、セミナーも実施する予定です。

今後、電子耕紙面でも、リトルファーミングクラブの動きをレポートしていきたいと思います。

電子耕読者の皆様にも、是非、リトルファーミングクラブのウェブサイトにお立ち寄りいただければと思います。

◆田舎的暮らしと野菜の育て方の情報サイト

リトルファーミングクラブ by 首都圏帰農サポートネットワーク

ウェブサイト :

<http://www.kinou.net/>

メール : info@kinou.net

環境クラブ代表

首都圏帰農サポートネットワーク事務局長 増山 博康

<戦後 60 年 新刊紹介>

国民学校世代からの伝言

・忘れられない「食べもの」「疎開生活」「玉音放送」など

岩波新書編集部・編『子どもたちの8月15日』

岩波新書 2005年7月20日 定価 735円

<http://www.iwanami.co.jp/BOOKS/43/5/4309560.html>

この原稿執筆時現在、衆議院議長河野洋平も参議院議長扇千景も60年前は国民学校の生徒だった。放送界で活躍してる筑紫哲也も永六輔も国民学校五年生で終戦を迎えた。作家、作曲家、漫画家から皇后美智子さんまで当時4〜12歳だった33名の回想で綴られたこの新書は私より10年遅く生まれた世代のものが、戦争の悲劇をよく物語っている。

主な執筆者と内容を紹介する

◆山藤章二，八月十五日の盗人：

縁故疎開で千葉のお寺で天皇の放送を皆が聞いているスキに庫裏の奥に保管している壺の梅干を三つ四つと食べ続けた。今日は特別な日だ。「梅干より天皇さまの放送」と伯母は叱らなかった。

◆石毛直道，コーリヤンの海苔巻き：

千葉県柏国民学校の私の運動会で母親は、配給のコーリヤンで海苔巻きを作ってくれた。ほかの生徒は白米の海苔巻きであった。私が赤い海苔巻きを食べているのに気づき、「見ろ！見ろ！戦災児童は変なものを食べている」とはやしたてられた。子どもの頃、腹を空かせていたので、「食」にこだわるように

なった。後年、わたしが食文化の研究をする遠因となった。

◆筑紫哲也，松の根を求めて山奥へ（大分）：

児玉 清，疎開先で学んだ「貧しさ」と「豊かさ」

永 六輔，浅間山で自爆した航空兵

中村敦夫，戦争—その記憶と本質

山川静夫，祖父の予想

柳田邦男，人生を支配した恐怖のトラウマ

宮内義彦，「不変なものはない」からこそ

安丸良夫，軍国少年の「転向」？

別役 実，ヒキアゲシャ（満州）

原ひろ子，ソウルでの一九四五年八月十五日

小澤征爾，カンバスで作ったグローブ

ほかに、

阿刀田高，扇千景，河島英昭，佐野洋子，梁石日氏など。

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人

原田 勉

<http://nazuna.com/tom/>

<シンポジウムのお知らせ>

「わが国における環境直接支払い等の農業環境政策の必要性と有効性」

シンポジウム（滋賀県ほか地方自治体主催）（参加費無料）

「わが国における環境直接支払い等の農業環境政策の必要性と有効性」

日時：平成17年（2005年）8月29日（月）13:00-17:30

場所：東京大学武田ホール（武田先端研ビル5階）文京区弥生

2-11-16（tel03-5841-1162）

○基調講演

わが国における農業環境政策の展望：

東大教授 生源寺 真一氏

世界における農業環境政策の潮流：

OECD 食料農業局 次長ケン アッシュ氏

○取組事例報告

農業による負担軽減のための取組

農業・農村環境直接支払い制度： 滋賀県

正の機能を増進させる取組

生物多様性維持保全型環境直接支払いの検討：福岡県

○パネルディスカッション（15:40-17:30）

コーディネーター：農林水産政策研究所長 西尾 健氏

パネラー： OECD 食料農業局次長 ケン アッシュ氏

農業環境技術研究所理事長 佐藤洋平氏

東大教授 生源寺 真一氏

農林漁業金融公庫理事 村田 泰夫氏

農林水産省 依頼中

JA 依頼中

17:30 閉会

参加者は次のところに参加者名と所属を直接連絡してください。

滋賀県大津市滋賀県庁農林水産部環境こだわり農業課 森野宛

tel 077-528-3891 Fax 077-528-4881

Email gh00@pref.shiga.lg.jp

<編集後記> 子どものけんかじゃああるまいし

9月11日、衆議院選挙が行なわれる。今回の解散の発端は参議院での郵政民営化法案の廃案であったわけだが、ともかく、政治家の発する言葉、あるいはそれをとりあげるマスコミの言葉がひどすぎる。「郵政民営化は、おれの信念だ。殺されてもいい」（小泉首相）や「造反組」や「刺客」等々。

政治とは、立場を異にする者が平和に暮らすために智慧を出しあい合意をつくりだす過程であるとわたしは考えるが、いまの選挙をめぐるうごきをみると、「オレにつくのか、それともアイツにつくのか」という敵味方の論理があまりに強すぎる。これでは子どものけんかではないか。

2005年8月24日

山崎農業研究所会員・田口 均

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、

y.noken@taiyo-c.co.jp

となっております。投稿される方はこちらのアドレスをお願いします。

次回 166 号の締め切りは9月5日、発行は9月8日の予定です。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45 『メールマガジンの楽しみ方』

著者：原田 勉 定価：735 円 発行日：2002 年 10 月 4 日

発行所：岩波書店 ISBN4-00-700045-X

まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら

<http://nazuna.com/tom/book.html>

『電子耕』から大切なお知らせ

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 165 号

バックナンバー・購読申し込み／解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html

2005.08.25（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp>

***** ここまで『電子耕』 *****

.